

<香川県内の経済動向> (2018年10月作成分)

現在の景気：回復している。

3か月程度の見通し：緩やかな回復へ向けた動きが続くと考えられる。

個人消費：

- ① 着実に持ち直している。
- ② 8月の百貨店・スーパー販売（速報値）は、前年比0.9%増と3か月連続で増加。店調後は前年比2.5%減と2か月連続で減少。8月のコンビニエンスストア販売（速報値）は前年並み。8月の専門量販店販売（速報値）は、家電大型専門店が前年比（店調前）6.1%減と4か月ぶりに減少、ドラッグストアが同9.4%増と41か月連続で増加、ホームセンターが同0.6%減と3か月ぶりに減少。8月の乗用車新車販売は、小型乗用車で前年比11.0%減少したものの、普通乗用車で同7.5%増、軽乗用車で同12.3%増加し、全体では前年比3.8%増と2か月連続で増加。

住宅建築：

- ① 貸家を中心に減少している。
- ② 8月の住宅着工戸数は、持家で前年比2.8%減、貸家で同40.2%減、分譲で同64.6%減少し、全体では前年比29.7%減と5か月連続で減少。

設備投資：

- ① 増加している。
- ② 「全国企業短期経済観測調査結果（2018年9月）-香川県-」における2018年度のソフトウェア・研究開発を含む設備投資額（除く土地投資）は、全産業で前年度比58.0%増加見込み。

公共工事：

- ① 振れを伴いつつも高水準で推移。
- ② 8月の公共工事請負額は、国・独立行政法人等で前年比55.1%減、県で同14.8%減、市町で同25.7%減少し、全体では前年比26.3%減と3か月連続で減少。4～8月の年度累計では前年比0.6%増加。

輸出：

- ① 持ち直しの動きがみられる。
- ② 8月の県内通関輸出額は、主要品目である船舶で前年比44.4%増となったことから、全体では前年比38.6%増と2か月ぶりに増加。1～8月の累計では前年比15.1%増加。

生産活動：

- ① 振れを伴いつつも緩やかな持ち直しの動きがみられる。
- ② 7月の鉱工業生産指数（季調済）は、前月比3.5%減少し、97.1と2カ月ぶりに低下。化学・石油石炭製品工業（医薬品）、はん用・生産用機械工業（ころ軸受・高所作業車）などで低下。輸送機械工業（鋼船）、非鉄金属工業（電気金・電気銅）などで上昇。

観光：

- ① 弱さがみられるものの、堅調に推移。
- ② 8月の県内テーマパークを含めた主要観光地の入込客数は、豪雨や台風の影響などがみられ、前年比11.3%減と7カ月連続で減少。1～8月の累計では前年比8.6%減少。

雇用情勢：

- ① 好調に推移。
8月の有効求人倍率（季調済）は、前月比0.02ポイント低下の1.78倍。新規求人数（原数値）は、建設業、宿泊業・飲食サービス業等で増加し、運輸業・郵便業、卸売業・小売業等で減少となり、全体で前年比1.8%減と3カ月連続で減少。

（トピックス）

○2017年に香川を訪れた観光客の消費額（推計値）は、前年比10.9%増の1,125億8千万円で、観光庁が調査基準を統一した10年以降で、中国人観光客らによる「爆買い」ブームに沸いた15年（1,206億円）に次いで高かったことが県のまとめで分かった。17年の香川の観光客数は瀬戸大橋開通年（1988年）に次ぐ946万人超を記録しており、インバウンド（訪日外国人客）の増加や景気回復で消費が増えたとみられる。

1人当たり平均消費額は、宿泊客が前年比2,507円増の2万5,956円、日帰り客は同588円増の6,268円で、いずれも増額。

エリア別では近畿からが31.1%を占め、山陽23.1%、香川以外の四国21.5%、関東11.4%と続いた。海外は3.1%だった。

一方、県内の平均宿泊日数は1.30泊。消費拡大に向け、滞在日数を伸ばす取り組みが検討されている。

項目	変化方向			評 価				
	好転	不変	悪化	晴	晴一部曇	曇	曇一部雨	雨
現在の景気	○	●	○	○	●	○	○	○
3か月程度の見通し	○	●	○					
個人消費	○	●	○	○	●	○	○	○
住宅建築	○	○	●	○	○	●	○	○
設備投資	●	○	○	●	○	○	○	○
公共工事	○	●	○	○	●	○	○	○
輸出	○	●	○	○	○	●	○	○
生産活動	○	●	○	○	○	●	○	○
観光	○	○	●	○	●	○	○	○
雇用情勢	○	●	○	●	○	○	○	○
企業収益	○	●	○					
企業倒産	○	●	○					
資金需要	○	●	○					